



インストールのチェックリストと前提条件

この章の内容は、次のとおりです。

- [インストールの概要のチェックリスト, 1 ページ](#)
- [インストールの前提条件のチェックリスト, 2 ページ](#)
- [サービス プロファイル設定の前提条件, 3 ページ](#)
- [SAN のブート トポロジの例, 6 ページ](#)
- [インストール ISO イメージのマウント, 7 ページ](#)

インストールの概要のチェックリスト

Cisco UCS B シリーズ サーバにオペレーティングシステム (OS) をインストールするには、次のタスクを実行します。

完了	作業	その他の情報
	インストールの前提条件のチェックリスト, (2 ページ) で説明されている前提条件を満たします。	インストールやライセンスの要件の詳細については、インストールするオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。
	サービス プロファイル設定の前提条件, (3 ページ) で説明されているサービス プロファイル設定の前提条件を満たします。	サービス プロファイルの詳細については、使用している Cisco UCS Manager のバージョンに関する GUI または CLI のコンフィギュレーション ガイドを参照してください。
	KVM コンソールを起動し、インストール メディアをマウントします。	詳細については、 インストール ISO イメージのマウント, (7 ページ) を参照してください。

完了	作業	その他の情報
	OS の手順の説明に従って、インストールを完了します。	<p>詳細については、次のいずれかを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 内部ドライブへの Windows Server 2003 のインストール ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2003 のインストール 内部ドライブへの Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール ブート可能 SAN LUN への Windows Server 2012 または Windows Server 2008 のインストール

インストールの前提条件のチェックリスト

オペレーティングシステム (OS) のインストールを開始する前に、次のアイテムがあり、次のタスクを完了していることを確認します。

完了	前提条件
	<p>インストール ターゲット サーバが、インストール先のオペレーティング システム (OS) のバージョンをサポートしていることを確認します。</p> <p>サポートされるバージョンについては、適切な PDF を参照するか、インタラクティブな <i>UCS Hardware and Software Interoperability Utility</i> を使用してください。いずれも、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/web/techdoc/ucs/interoperability/matrix/matrix.html。</p> <p>(注) 各リリースの相互運用性情報は、リリースが公開された後に実行されるサードパーティの認定テストによって変わります。そのため、リリースから数か月後まで、相互運用性情報が公開されない可能性があります。</p>
	<p>Cisco UCS Manager GUI 用に設定した IP アドレスと、管理特権を持つログインアカウントを用意します。</p>

完了	前提条件
	<p>OS 用のインストール メディア (DVD または ISO イメージ) を用意します。アクティベーション キーが必要なソフトウェアの場合、その情報も用意します。</p> <p>ヒント 仮想デバイスとしてマップする ISO イメージから OS をインストールすることをお勧めします。</p> <p>物理ディスクからインストールすることもできますが、この方法の場合、KVM ケーブルと USB コネクタを使用して、OS をインストールするブレードに外部 USB CD/DVD ドライブを取り付ける必要があります。詳細については、使用しているブレードサーバの『<i>Hardware Installation Guide</i>』を参照してください。すべてのハードウェア インストール ガイドは、http://www.cisco.com/en/US/products/ps10477/prod_installation_guides_list.html で入手できます。</p>
	<p><i>Cisco UCS B-Series Drivers DVD</i> またはこの DVD の ISO イメージを用意します。</p> <p><i>UCS B-Series Drivers DVD</i> ISO 画像は、Cisco.com サポート サイトの Unified Computing and Servers > Cisco UCS B-Series Blade Server Software > Unified Computing System (UCS) Drivers にあります。URL は http://www.cisco.com/cisco/software/type.html?mdfid=283853163&flowid=25821 です。</p> <p>(注) ISO イメージをダウンロードする場合、そのイメージ DVD に書き込むか、サードパーティのユーティリティを使用してラップトップのハードドライブにイメージをマウントします。</p> <p>インストール時には、この DVD の適切なドライバイメージファイルを、サーバからアクセスできる場所に抽出して、仮想フロッピーとしてマウントできるようにする必要があります。</p>
	<p>サーバに LSI MegaRAID コントローラがある場合、サーバのドライブ用に RAID 設定を構成します。OS をインストールする前に LSI MegaRAID LUN を設定していないと、インストール時にディスク検出エラーが発生し、「No Device Found」といったエラー メッセージが表示される可能性があります。</p>

これらの前提条件を満たしたら、適切に設定したサービス プロファイルをサーバに関連付けられるようにします。詳細については、[サービス プロファイル設定の前提条件](#)、(3 ページ) を参照してください。

サービス プロファイル設定の前提条件

インストールする OS のバージョンに関係なく、インストール ターゲット サーバを、適切に設定したサービス プロファイルに関連付ける必要があります。サービス プロファイルには、サーバに適用されているすべての情報と設定が含まれます。

次のチェックリストは、サービス プロファイルに必要な最小限の構成設定を示しています。これらの設定の詳細な手順については、使用している Cisco UCS Manager バージョンのコンフィギュ

レーションガイドを参照してください。コンフィギュレーションガイドは、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10281/products_installation_and_configuration_guides_list.htmlを参照してください。

完了	設定作業	その他の情報
	Cisco UCS Manager を使用して、ネットワーク上の物理リソースと論理リソースを識別するプールを設定します。サーバのサービス プロファイルを構築するときに、これらのプールから選択します。	Cisco UCS を使用すると、サーバ、MAC アドレス、WWN アドレス、UUID 接尾辞、および管理 IP アドレスのプールも定義できます。
	ターゲットサーバとネットワーク接続する各アップリンク ファブリックに、1つの名前を付けた VSAN を設定します。	名前を付けた VSAN によって、特定の外部 SAN ファブリックへの接続が作成されます。
	各 VSAN を、その対応するファブリック インターコネクタ上の物理アップリンク ポートに関連付けます。	たとえば、Fabric A 用に作成した VSAN を、Fabric Interconnect A 上で使用可能な物理ポートに関連付けます。
	ターゲットサーバとネットワーク接続する各アップリンク ファブリックに、1つの vHBA ポリシーを設定します。	この vHBA ポリシーでは、vHBA を SAN に接続する方法を定義します。
	サーバに LSI MegaRAID コントローラがある場合、[Local Disk Configuration] ポリシーを作成することで、システムでドライバの RAID 設定を構成します。	OS をインストールする前に LSI MegaRAID LUN を設定していないと、インストール時にディスク検出エラーが発生し、「No Device Found」といったエラーメッセージが表示される可能性があります。

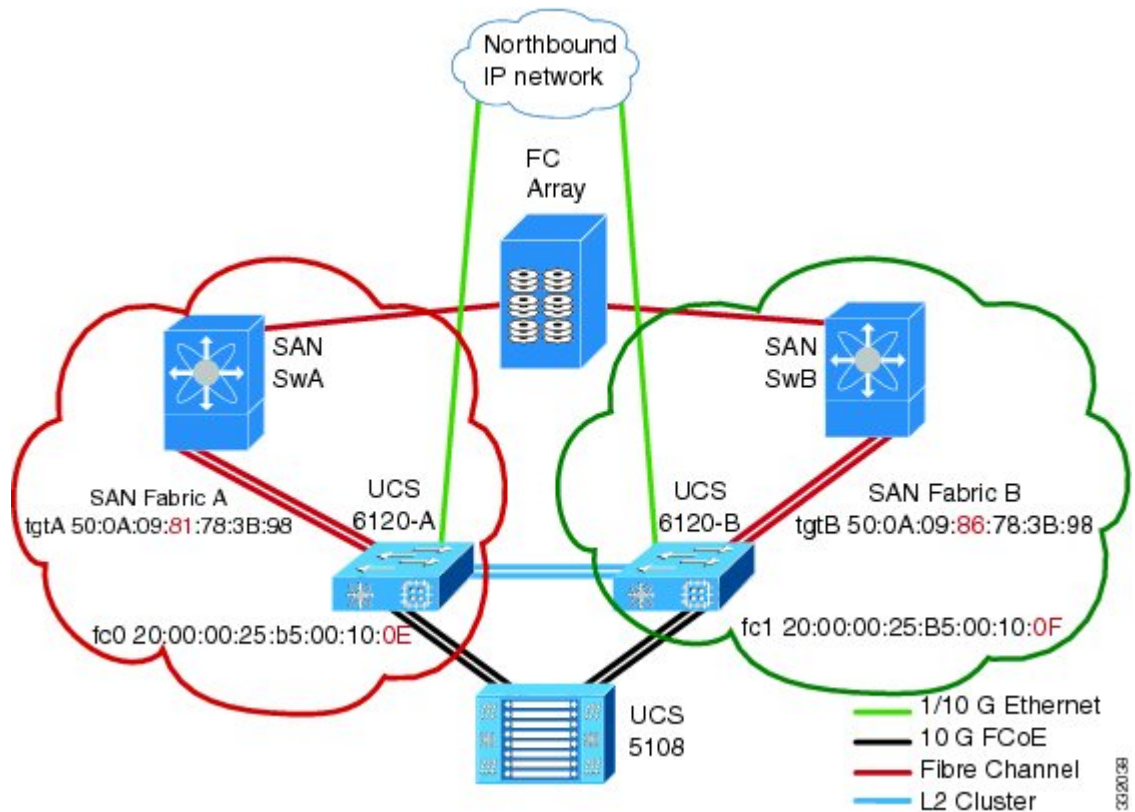
完了	設定作業	その他の情報
	<p>実行するインストールの種類に合わせて、ブート ポリシーを作成します。</p>	<p>内部ドライブに OS をインストールする場合、次の [Boot Order] を定義します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 CD-ROM 2 フロッピー (Windows 2003 のみ) 3 ローカル ディスク <p>ブート可能 SAN LUN にインストールする場合、次の [Boot Order] を定義します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 CD-ROM 2 フロッピー (Windows 2003 のみ) 3 ストレージ <ul style="list-style-type: none"> • SAN プライマリ • SAN セカンダリ
	<p>サーバに2枚のネットワークインターフェイスカード (NIC) がある場合 (Cisco UCS CNA M71KR-E など)、両方の NIC にユーザ定義の MAC アドレスを割り当てるために、各カードに別の vNIC ポリシーを作成する必要があります。</p>	<p>1 つの vNIC ポリシーのみをサービス プロファイルに関連付けると、Windows ではハードウェアベースの MAC アドレスが 2 枚目の NIC に割り当てられます。</p> <p>後でサービス プロファイルを別のサーバに移動する場合、ハードウェアベースの MAC アドレスはそのプロファイルと共に移動しません。また、MAC アドレスにリンクされているプログラムがある場合、そのプログラムで適切なサーバの場所を特定できなくなります。</p>
	<p>サーバの管理に必要なその他のポリシーを設定します。</p>	<p>使用できるポリシーの詳細な一覧については、Cisco UCS Manager の『<i>Configuration Guides</i>』を参照してください。</p>
	<p>ターゲットブレードサーバに合わせて、新しいサービス プロファイルを作成するか、既存のサービスプロファイルを変更します。このサービス プロファイルは、ターゲットサーバ用に作成したネットワーク設定とポリシーに関連付けます。</p>	<p>複数のサーバに同じ OS をインストールする予定の場合、サービス プロファイル テンプレートを作成し、作成した構成設定にそのテンプレートに関連付けることもできます。</p> <p>また、そのテンプレートを使用して、ターゲットサーバごとに独自のサービス プロファイルを作成します。</p>

完了	設定作業	その他の情報
	サービス プロファイルをターゲット サーバに関連付け、サーバをリブートします。	ターゲットサーバをリブートすると、サービス プロファイルの設定がサーバに適用されます。 重要 サーバのリブートが完了し、Cisco UCS Manager のサービス プロファイルがサーバへ適切に関連付けられるまで、ISO インストールイメージまたはドライバイメージをマウントできません。

SAN のブート トポロジの例

次の例は、SAN のブート機能を使用する Cisco UCS ドメインのトポロジを示しています。

図 1: SAN のブート トポロジ



インストール ISO イメージのマウント

はじめる前に

- インストールの前提条件のチェックリスト、(2 ページ) とサービス プロファイル設定の前提条件、(3 ページ) に説明されている前提条件を満たします。
- Cisco UCS のユーザ名とパスワードがあることを確認します。
- サービスプロファイル名、またはオペレーティングシステム (OS) をインストールするサーバ名を確認します。
- サーバがサービスプロファイルに関連付けられていることを確認します。詳細については、次を参照してください。使用している Cisco UCS Manager バージョンのコンフィギュレーションガイドを参照してください。コンフィギュレーションガイドは、次の URL で入手できます。http://www.cisco.com/en/US/products/ps10281/products_installation_and_configuration_guides_list.html

ISO イメージをサーバにマウントするには、サーバをサービスプロファイルに関連付ける必要があります。

手順

ステップ 1 Web ブラウザで、Cisco UCS Manager GUI の Web リンクを入力または選択します。

例 :

デフォルトの Web リンクは `http://UCSManager_IP` または `https://UCSManager_IP` です。スタンドアロン構成の場合、`UCSManager_IP` はファブリック インターコネクトの管理ポートの IP アドレスです。クラスタ構成の場合、`UCSManager_IP` は Cisco UCS Manager に割り当てられている IP アドレスです。

ステップ 2 Cisco UCS Manager 起動ページの [Launch KVM Manager] をクリックします。

ステップ 3 [Security Alert] ダイアログボックスが表示された場合は、[Yes] をクリックしてセキュリティ証明書を受け入れ、続行します。

ステップ 4 [UCS - KVM Launch Manager Login] ページで、次の手順を実行します。

- a) Cisco UCS のユーザ名およびパスワードを入力します。
- b) (任意) Cisco UCS の実装に複数ドメインが含まれる場合は、[Domain] ドロップダウン リストから適切なドメインを選択します。
- c) [OK] をクリックします。

ステップ 5 KVM Launch Manager の [Service Profiles] テーブルで、次の手順を実行します。

- a) OS のインストールに使用するサービス プロファイルとそれに関連するサーバを含む行を探します。
- b) そのサーバの [Launch KVM] 列の [Launch] をクリックします。別ウィンドウに KVM コンソールが表示されます。

ヒント KVM セッションを開いたときにキーボードの **Caps Lock** キーがオンになっており、その後が続いて **Caps Lock** キーをオフにすると、KVM コンソールは **Caps Lock** キーがオンのときのように動作する場合があります。KVM コンソールとキーボードを同期させるには、KVM コンソールにフォーカスがない状態で **Caps Lock** キーを 1 度押し、次に KVM コンソールにフォーカスを置いて **Caps Lock** キーをもう一度押しします。

ステップ 6 仮想メディアへのアクセス方法は、使用している **KVM コンソール** のバージョンによって異なります。仮想メディアにアクセスするには、次のいずれかを実行します。

- [Virtual Media] タブをクリックします。
- [VM] タブをクリックします。
- [Tools] > [Virtual Media] を選択します。

ステップ 7 [Add Image] をクリックし、インストール ISO イメージを含むディレクトリに移動します。

ステップ 8 ISO イメージファイルを選択し、[Open] をクリックします。

ステップ 9 [Client View] 領域で、ISO ファイルに関連付けられている [Mapped] 列のチェックボックスをオンにし、マッピングが完了するまで待ちます。

ヒント [Details] をクリックしてマッピングの進行状況を表示します。

次の作業

インストールする OS に対応するインストール手順を参照して OS をインストールします。